



## トビ阿斯・ストーリー (5) 親たち

翌朝、家族はトビ阿斯が生きていて、何の害も受けていないことを知り、感謝と喜びで神をほめたたえるのです。悪魔は追い払われ、天使ラファエルによって懲らしめられていました。

サラの両親ラグエルとエドナの喜びは大変なものでした。共に感謝の祈りを捧げます。トビ阿斯を愛し、盛大な結婚の宴会を開きました。サラもこれまでのひどい苦しみから解放されました。トビ阿斯はサラとの婚礼を祝っている間も、肝心の旅の目的を忘れてはいませんでした。父がお金を預けていたガバエルのもとに、証文を持たせて、アザリアを使いに出します。アザリアは無事に勤めを果たし、財産を受け取って帰ります。ガバエルも喜んで婚礼の席に馳せ参じます。

一方、トビトとハンナはトビ阿斯の帰りを指折り数えて待っていました。



Rembrandt Harmensz. van Rijn 1606 - 1669

トビトは心配して、悪いほうへ、悪いほうへと想像してしまいます。ハンナは「わたしのかわいい息子は死んでしまい、もう生きてはいない」と嘆きます。あわててトビトは「あれこれ考えるのはやめなさい。よんどころない用事が出来たにちがいない。そのうちきっと帰って来る」と言って妻を落ち着かせようとしませんが、ハンナは「何もおっしゃらず、ほうっておいてください。気休めはもうたくさんです。かわいい息子は死んでしまったのです」と言って、ただただ嘆き悲しむのです。

- ・ 象徴的なお話ですが、サラが本当に幸せになれる相手は信仰第一とするトビ阿斯だったので、サア、良かったですね！
- ・ オレオレ詐欺に騙される老母が多いのですが、子どもを思って不安にかられると母親は我を忘れてしまうのです。ハンナは最愛の息子を思って、夫の言葉でさえ耳に入らないほど、また、聞きたくもないと思うほどです。トビトが「あれこれ考えるのはやめなさい」と言うように、あれこれ迷わず、子どもを信頼して、揺るがないようにしたいと思います。(私の感想)